

日本国際看護学会研修会報告

開催日：平成29年7月9日（日）

会場：JICA 東京(東京国際センター) セミナールーム411

平成29年7月9日（日）JICA 東京(東京国際センター) セミナールーム411で29名が参加し「グローバルナースングのこれから」に関する研修会が開催されました。

講師に、東邦大学看護学部教授の近藤麻理先生を迎え、「グローバルナースングのこれから」というテーマで研修が行われました。1部は近藤先生のご講演で、2部では講演を踏まえて、参加者の皆様に「グローバルナースングのこれから」について考えました。講演では、近藤先生の「国際看護学」の講義内容を踏まえながら、「看護職にとって国際的視点がなぜ重要なのか」を具体的に説明されており、貴重なお話を聞くことができました。先生の講義で「看護の対象は人間である」「民族や人種を越えた人間への看護」「社会制度や政治を越えた、社会に左右されない看護」「20～30年後の世界と日本を想像したうえで、次の時代の看護」を考える事が大切であると話されました。

また、グループワークでは、「講演で学んだこと」「皆様が考えるグローバルナースングのこれから」について議論し発表も行われた。「看護教員のグローバル化」「病院内教育でグローバルナースングが必要」「次世代へ異文化理解、社会情勢、歴史を伝えていく」「グローバルな発想で研究・教育の推進」「国内の国際化の推進」「難民への対応が重要である」「外国人へ関心を持ってもらう」など、グループで考えた内容を具体的に聞く機会となった。

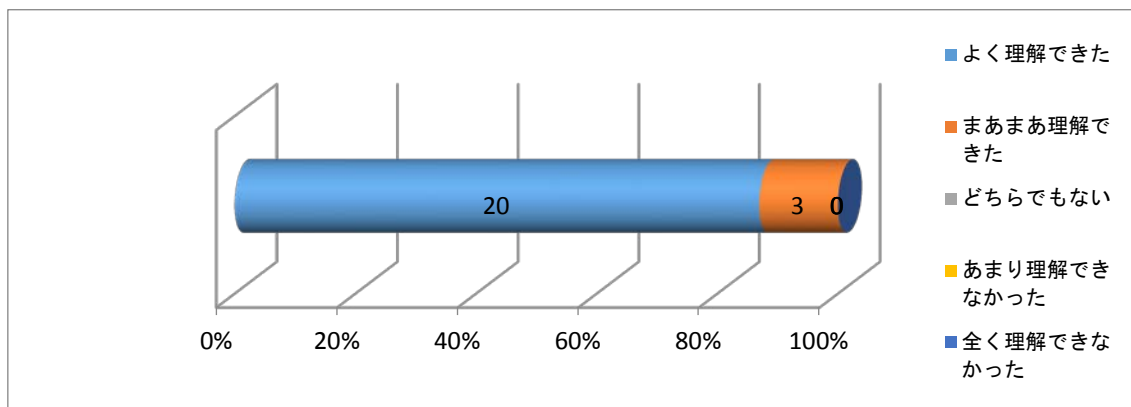


研修会の様子

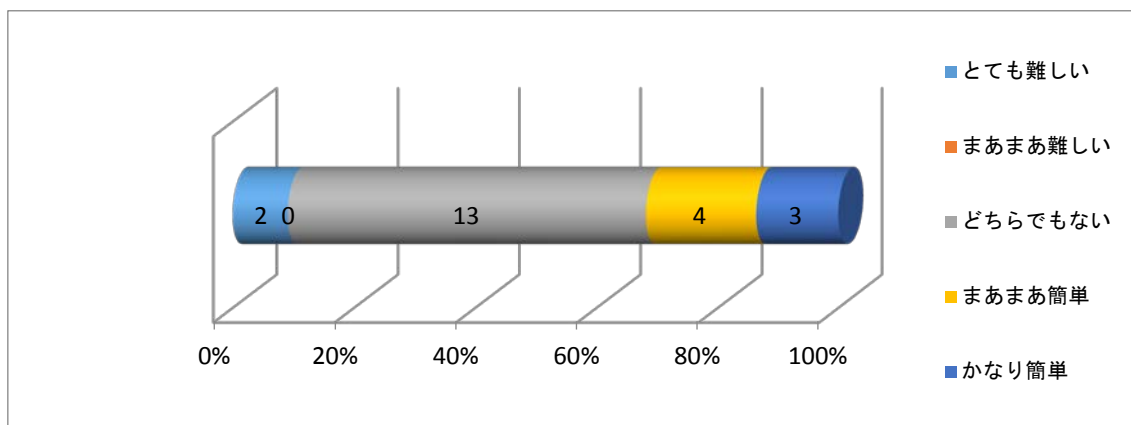
参加者からのアンケート報告

参加者アンケートのうち掲載同意がとれた、23名を対象。

- ① 「講義内容について理解できましたか」では、「よく理解できた」20名(87%)で、「まあまあ理解できた」3名(13%)であった。



- ② 「研修の難易度はいかがでしたか？」では、「とても難しい」2名(9%)、「まあまあ難しい」0名、「どちらでもない」13名(57%)、「まあまあ簡単」4名(17%)、「とても簡単」3名(13%)であった。



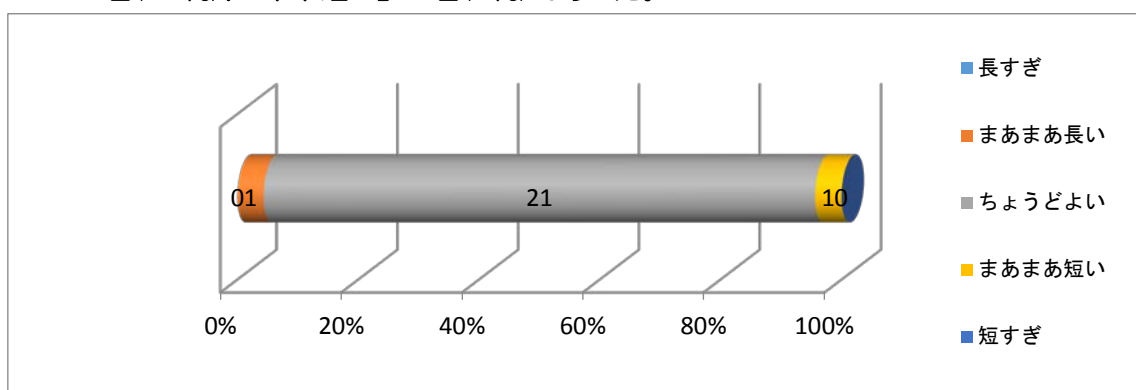
- ③ 一番印象に残った内容は何か？（一部のみに）

- 看護の対象という点で、看護の根本的な点を改めて考えさせられた。
- グループワークで様々意見交換ができたこと
- マララ・ユスフザイさんの映像を学生に見せたときの学生の反応と「教育によって世界は変えられる」というのがとても印象的でした。
- 社会制度を超えた「看護」という考え方
- 看護は人相手、自分が目の前の人を助けるという使命感をもつこと

④ 参加する前と参加した後ではあなた自身どのような変化がありましたか。(一部のみ)

- 10年後国際看護に対して、学びたいという気持ちがとてもあったことを思い出し、明日から今以上に世界情勢のことを自ら調べて学んでいこうと思いました。
- グループワークの発表を聞いて、世代間の違いを感じた。教育者と若者のズレに関して再度、見直していこうと考えました。
- 漠然とグローバルに興味があったが、自分は何をみなければならぬのか、何が必要か、看護の視点で、どう考えればよいか具体化できた。

⑤ 「内容に対して時間は適切でしたか？」では、「やや長い」1名(4%)、「ちょうどよい」21名(92%)、「やや短い」1名(4%)であった。



⑥ 進め方や情報量はいかがでしたか？(一部のみ)

- グループワークで参加者同士の関わりも持ててよかったです。
- ちょうどよいペース・内容で非常に分かりやすかった。
- 豊富で良かった。

⑦ 研修会を受講し、今後どのような行動を取られますか。(一部のみ)

- 現場で出会う在日外国人のケアにいかしていきたい。現場レベルでもグローバルな視点を広められる存在になりたい。
- 自分の担当する科目でもグローバルナースングの視点を取り入れようと思います。
- 臨床での外国人のコミュニケーション方法の工夫

⑧ 現在、国際看護実践・研究であなた自身が悩まれていることは何ですか。(一部のみ)

- 限られた人しか国際看護に関わってしないと思われていること
- 国際という言葉を出した途端に、教員も学生も壁を作るところ
- 大学のグローバル化が課題とはされますが、国際的活動に必ずしも大学の予算が伴わないこと